ん？

!?

ズーノーシス
緊急特集！

ズーノーシス？
なって何？
？？　？？

スイーン

元気になって
よかったね

ねえ
マスター

やあ！
ウーちゃん
どうしたの？

コレ

ズーノーシス
って何？

ズーノーシスねぇ

ふむ

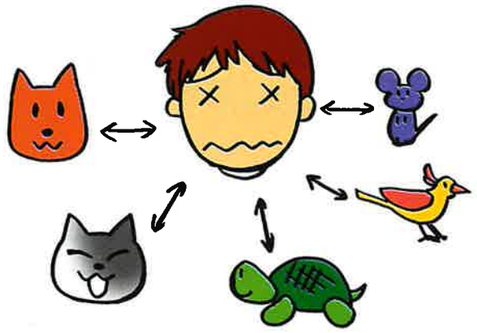
じゃあ

一緒に
お勉強しようか

はーい

ズーノーシスとは

動物由来感染症といい



動物から人にうつる病気のことです

現在確認されているだけでも150種類以上もあります



おうちのかたへ

ズーノーシスとは、「動物由来感染症」といい、人と動物の間で感染する病気のことです。

現在確認されているだけでも、１５０種類以上もあり、主なものは狂犬病、オウム病、回虫症などがあります。

ズーノーシスが問題となってきた背景には、人間社会の変化と人間の行動の多様化があげられています。例えば、交通手段の進展による膨大な人とモノの移動、人工の都市集中、絶え間ない土地開発と自然環境の変化、先進国では高齢者の増加などの影響や野生動物のペット化、動物性食品の生産体制の著しい変化などがあげられています。

そのような中で、今まで未知であった感染症が明らかになったり（新興感染症）、忘れられていた感染症がその勢いを取り戻しています。現在、世界ではたくさんの新興感染症が見つかっています（ニパウイルス感染症など）。それらの中には感染力が強く、重症化する傾向があり、有効な治療法がまだ開発されていないものもあります（エボラ出血熱など）。



世界中で数多くあるズーノーシスの全てが日本に存在するわけではありません。日本には数十種類くらいがあるといわれています。

日本に比較的少ない理由としては、

- 地理的要因（温帯で島国）
- 家畜衛生対策等の徹底
- 衛生観念の強い国民性（手洗いの励行やネズミ対策の徹底）

などが考えられます。



世界ではこのようなことがおこっています。



ヨーロッパであったこんな話

- は虫類のペットから乳児が感染して死亡。
  （サルモネラ症）
- ハリネズミにふれたことが原因で病気に。
  （ネズミチフス菌症）
- 汚染地帯の野ウサギやダニから感染して発熱。
  （野兎病）

中近東であったこんな話

- 牛などの家畜にふれたり、
  生乳を飲んで感染。　（ブルセラ症）
- もともと土壌に長期生存し、
  かかった動物から人が感染。（炭疽）

アフリカであったこんな話

- サルから感染した後に、人から人へ感染。
  （エボラ出血熱、マールブルグ病）
- 動物から人が感染した後に、人から人へ院内感染。
  （クリミア・コンゴ出血熱）
- 西アフリカでネズミが媒介する病気。
  患者は毎年３０万人。　（ラッサ熱）

オーストラリアであったこんな話

- コウモリ由来の新たな病気で死亡者発生。
  （リッサウイルス、ヘンドラウイルス）

東南アジアであったこんな話

- 洪水の後の川で泳いで不明熱。
  （レプトスピラ症）
- オオコウモリのウイルスが豚に感染した後、
  豚から人が感染して脳炎で死亡。
  （ニパウイルス感染症）
- ニワトリのインフルエンザが人にうつった例。
  （インフルエンザ）

北アメリカであったこんな話

- コウモリにかまれて感染発症し、２０人死亡。
  （狂犬病）
- 野生リス、プレーリードッグが感染源。
  死亡例もある。　（ペスト）
- 蚊が媒介する病気で、カラスの不明死についで
  人でも発生。　（ウエストナイル脳炎）
- アジアのサルの一部には、だ液に致死性ウイルスが
  ひそんでおり、咬まれて感染。（Ｂウイルス病）

日本であったこんな話

- 部屋で飼うインコの糞で感染し、お年寄りがひどい発熱。（オウム病）
- キタキツネの糞で感染して２０年後に発症。　（エキノコックス症）
- 犬やねこが普通に持っている病原体で、過度の接触で感染することがある。
  （Ｑ熱、パスツレラ症、ねこひっかき病）
- 感染ネズミの尿で池や川が汚染されたときに、水遊びで感染することがある。
  （レプトスピラ症）

我が国や外国で実際に発生している主な動物由来感染症

群	動物種	主な感染症	予防ポイント
ペット動物	犬	パスツレラ症、回虫症、狂犬病など	節度あるふれあい
	ねこ	猫ひっかき病、トキソプラズマ症、回虫症、Q熱、狂犬病など	
	小鳥	オウム病	
	観賞魚 カメなど	サルモネラ症	
野生動物	プレーリードッグ	ペスト、野兎病	病気について不明なことも多いので、一般家庭での飼育は控えるべき
	リス	ペスト、ハンタウイルス肺症候群、野兎病	
	アライグマ	狂犬病、アライグマ回虫症	
	コウモリ	狂犬病、ニパウイルス感染症など	
	キツネ	エキノコックス症、狂犬病	
	サル	Bウイルス病、細菌性赤痢、結核	
	ハト、カラス	オウム病、ウエストナイル脳炎	
	ネズミ	レプトスピラ症、腎症候性出血熱など	
家畜	ウシなど	Q熱、クリプトスポリジウム症、腸管出血性大腸菌	適切な衛生管理

主な動物由来感染症

オウム病

鳥（セキセイインコ、オウム、ハトなど）のフンに含まれる菌を吸い込んだり、口移しでエサをあげることによって感染する。

突然の発熱（３８度以上）で発症、せきがでて、たんを伴う。

Q熱

家畜、野生動物、ペットが感染している場合がある。感染した動物の尿やフンなどに含まれる菌を吸い込んで感染することが多い。感染者の約５０％は症状が現れない。軽度の呼吸器症状でなおることも多い。

猫ひっかき病

原因菌は、ねこの口などに普通に見られる細菌で、かまれたり、引っかかれたりした場合に人が感染することがある。

通常は咬まれたりした場所が赤くはれたり化膿したりする。

パスツレラ症

原因菌は、犬やねこの口の中に普通に見られる細菌で、かまれたり、引っかかれたりした場合に人が感染することがある。

通常は咬まれたりした場所が赤くはれたりするだけの軽傷である。

回虫症

犬やねこの糞中に排泄された寄生虫卵を口から摂取することにより感染する。

卵からふ化した幼虫が体内を移行することにより様々な症状を示す。

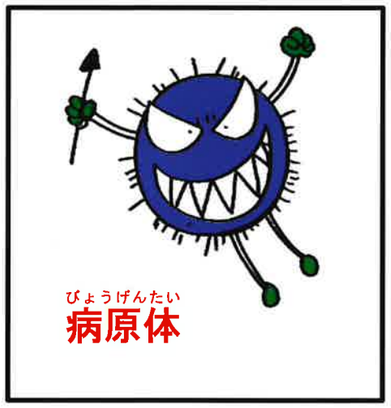
レプトスピラ症

原因菌がネズミの尿中に排泄され、これに汚染された水や土壌などを介して人が感染する。

症状に個人差があり、軽症型・髄膜炎型・重症型がある。

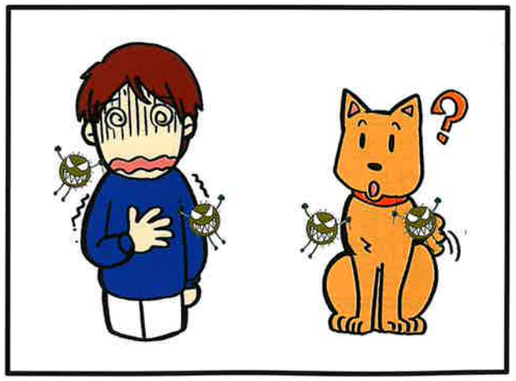






病気の原因となるものを病原体といい、いろいろな種類があります。これが人にうつると、病気になってしまいます。

病原体には、動物は病気にならないけれど人にうつると病気になるものもあるので
健康な動物相手でも注意が必要です。

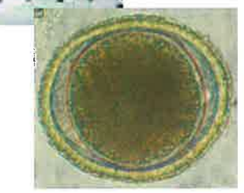


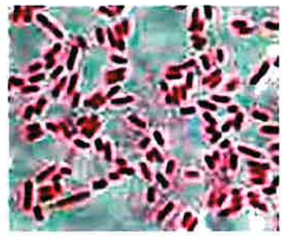
おうちのかたへ

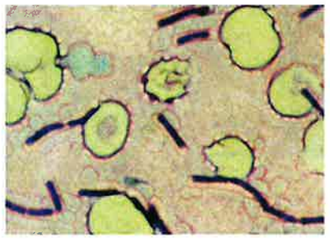
●ズーノーシスの病原体


ウイルス


寄生虫


（虫卵）



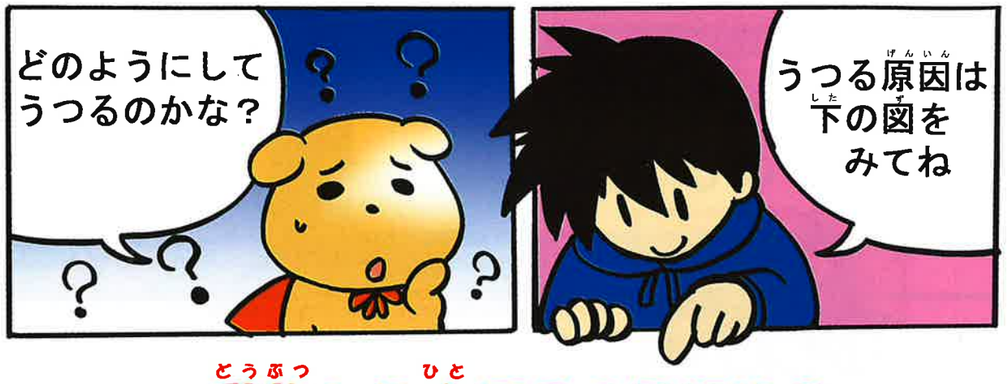

細菌

このほか、リケッチア、クラミジア、真菌などがあります。

●健康な動物でも注意が必要です。

ズーノーシスには、人も動物も病気になるもの、動物は健康で人が病気になるもの、人が軽症で動物が病気になるものなど病原体によって様々なものがあります。

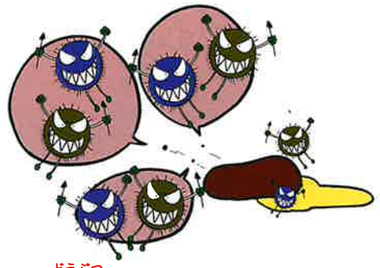
「健康な動物と暮らしているから大丈夫！」というわけではありません。動物には病気を起こさなくても人には病気を起こす病原体があります。



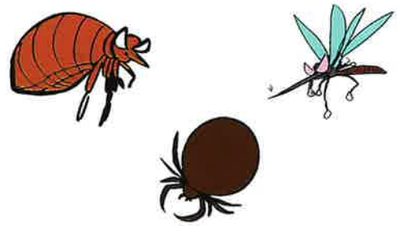
動物(どうぶつ)から人(ひと)にうつるには？



かまれる　なめられる　ひっかかれる



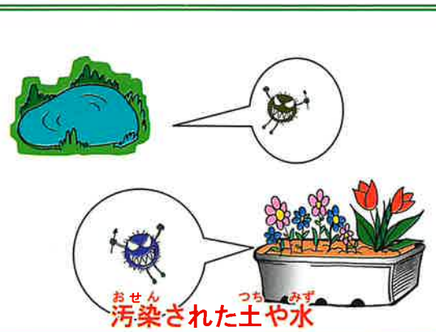
動物(どうぶつ)のおしっこやフン



ノミ　ダニ　蚊(か)



汚染(おせん)されたたべもの



汚染(おせん)された土(つち)や水(みず)



おうちのかたへ

●生活環境によるズーノーシスとの関連性

カテゴリー	ズーノーシス と の 関 連
ペット	本来、犬やねこから移ることは少ないが、人と密接にふれあうことで感染することがある。
野生動物	人の行動の多様化により、どのような病原体を持っているか不明なことが多い野生動物と接触し、感染する危険性がある。
家畜	衛生対策の徹底で予防可能な感染症が多い。
展示動物	人と動物がふれあえる施設では、ズーノーシスに配慮した対策が重要。

●輸入野生動物について

人の生活の多様化により、輸入野生動物を飼育している方も見られます。ズーノーシスの予防のためにも、また動物資源保護の観点からも、輸入野生動物の飼育はさけましょう。





ズーノーシスは予防できる病気です！

まずは、みんなができること！



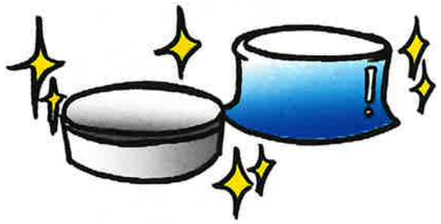
手を洗おう！

手に付いた病原体を洗いながすんだ

飼っている動物の身のまわりを清潔にする



動物の手入れはかかさずに



食器などは清潔に



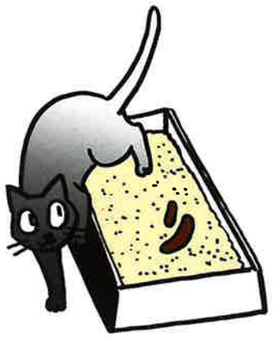
小屋や敷物はまめに洗う



まめに換気する

おしっこやフンはすぐに処理する

家でも



外でも



動物との濃厚なふれあいをさける



×キスをする

×同じ食器を使う

×一緒のふとんでねる

※かまれたりひっかかれたりしたときは すぐに傷口を洗って消毒しよう



おうちのかたへ

ズーノーシスは、予防できる病気です。

●手を洗う。

砂遊びや土いじりをした時や動物をさわったときに病原体が手についてしまうことがあります。これらの後には必ず手を洗うようにしましょう。

また、手を洗わないでご飯を食べてうつってしまうことがあります。ご飯を食べる前にも、もちろん手を洗いましょう。

●飼っている動物の身の回りを清潔にする。

飼っている動物はブラッシング、爪切りなど、細かく手入れをして清潔にしておきましょう。タオルや敷物などは病原体が繁殖しやすいので、こまめな洗浄が必要です。

●おしっこやフンはすぐに処理する。

おしっこやフンが乾燥すると空気中に漂い、吸い込みやすくなります。直接ふれたり吸い込んだりしないように、速やかに処理しましょう。

●動物との濃厚なふれあいはさける。

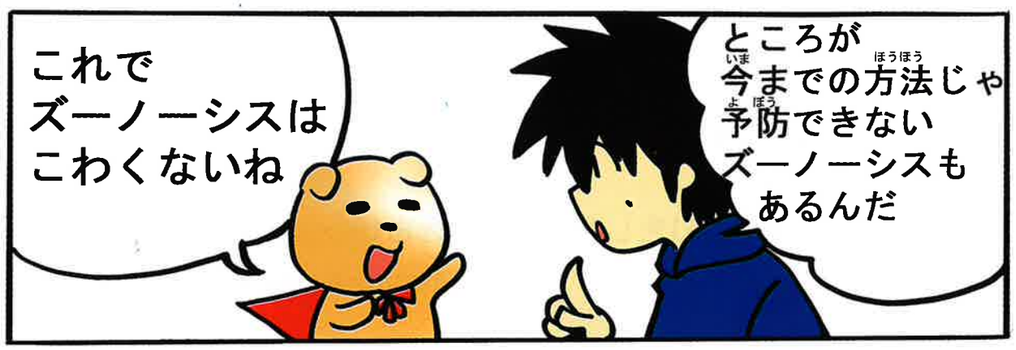
病原体が動物の口の中やつめにいる場合があります。

動物を布団に入れて寝ることも、接触することになり、また知らない間にひっかかれたりかまれたりすることがあるので注意が必要です。

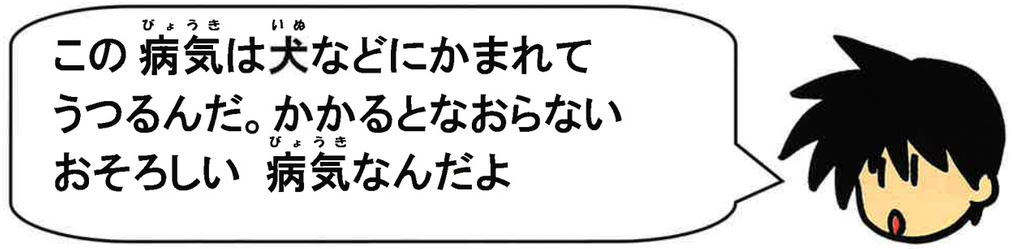
●動物にかまれたり、ひっかかれたりしたときは消毒しよう。

そのままにしておくと、そこから病原体が入りズーノーシスにかかってしまうことがあります。

まずは、かまれたり、ひっかかれたりした部位を石鹸などでよく洗って病原体をおとし、その後消毒しておきましょう。



それが狂犬病なんです





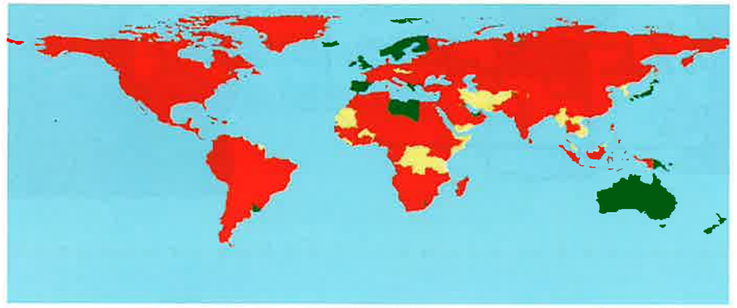


おうちのかたへ

「狂犬病」は今まで紹介した方法では予防できません。

しかも、発症したら治療法のない恐ろしい病気です。
いまだに世界中で発生しており、年間３～５万人が亡くなっています。

1997年における狂犬病（WHO報告）



国際化が進んだ今、いつ外国から狂犬病が入ってくるかわかりません。

日本には、１９５７年以降狂犬病の発生はありません。これは、日本の地理的要因なども関係していますが、１９５０年に『狂犬病予防法』が制定され、この法律を徹底したことが大きな要因と考えられます。

この法律の中で、狂犬病を掃討、予防するため次のことが義務づけられています。

●海外からの輸入持ち込み時の検査（検疫）





●登録による犬の把握と管理
●年１回の予防注射による免疫の保持
●野良犬などの未登録犬の排除

これらのことが守られているため、日本での発生がなくなり、再発がかろうじて抑えられているのです。

現在発生のない狂犬病ですが、万一侵入した場合、まん延を防ぐためには予防接種した犬の割合が少なくとも８０％以上必要といわれています。

具合が悪くなったり
体の様子が変だな？
と思ったらすぐに
大人の人に相談しよう





予防方法のおさらい



①手を洗う

②清潔にする

③濃厚なふれあいをさける

④怪我をしたら消毒をする

⑤犬に狂犬病予防注射をする

おうちのかたへ

● 体に不調を感じたら、早めに受診を！

ズーノーシスに感染しても、かぜやインフルエンザなどに似た症状が出る場合が多く、発見が遅れがちです。特に子供や高齢者は抵抗力が弱く注意が必要です。

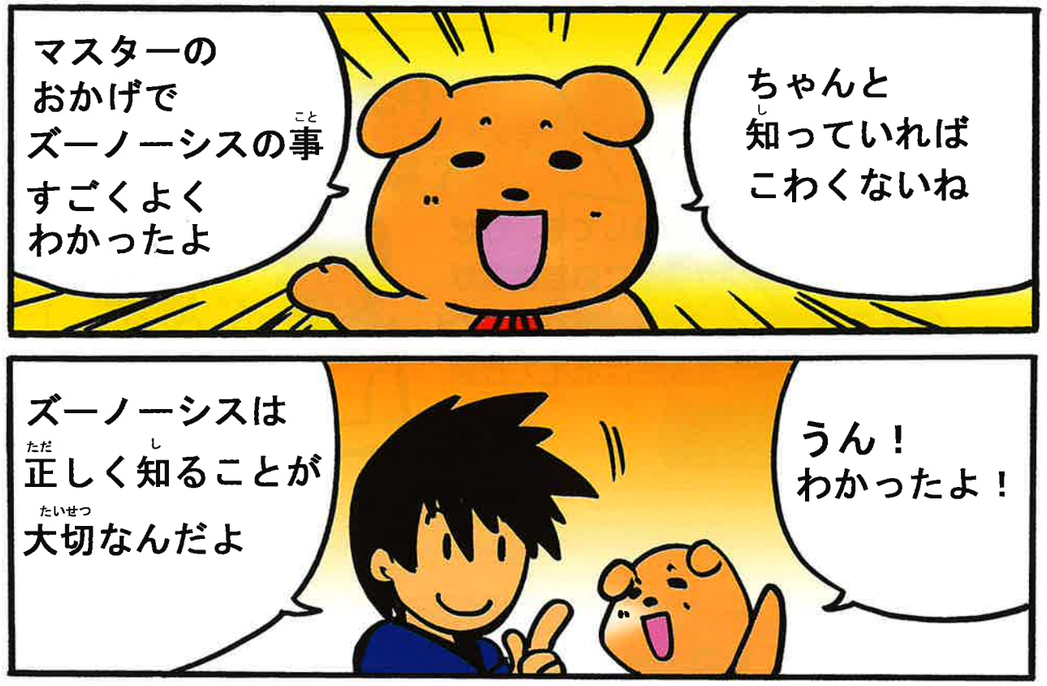


● 動物も定期検診で病気の早期発見を！

ペットの定期検診を受けるなど、日常の健康管理に注意し、病気を早めに見つけましょう。

かかりつけの動物病院を持ち、飼い方、病気の予防やワクチン接種などの相談ができると安心です。





もっと詳しく知りたい方は

「動物由来感染症を知っていますか？」

http://www.forth.go.jp/mhlw/animal/

厚生労働省ホームページ

